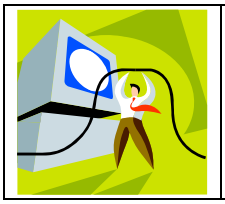

エッセイ

「キ ッ カ ケ」

SCE・Net 澁谷 徹

E -25

発行日

2011.04.01.

何かを始めるのには、何かの「キッカケ」が在ることが多い。私にとっての「キッカケ」は・・・・・

１．御多分にもれず私も現役時代は、住んでいる地域との繋がりが殆ど無い生活を過ごしてきました。2003 年春退職を前にして、自由な時間が多い生活を楽しみにしている気持ちの一方、退屈な時間となる不安もありました。丁度その時「回覧板による知らせ；歩いて 5 分の自治会館で PC の講習」が目に留まりました。私の PC 技術はメールが使えるだけでしたが、現役の時は若い人が助けてくれるので不自由なことはありませんでした。しかし、今後は自立しなければならないと思い、講習に参加することにしました。生徒は私以外に 2 人でした。女性（A）は主婦で現役の高等学校教師、もう一人の男性（B）は OB の建築技師で私の出身会社の入社同期の友人でした。しかも先生は、職場で 2 年先輩の大学時代の友人でした。このような環境で PC の勉強が始まりました。講習は、ワード・エクセルに始まり、メール・インターネットの利用、ホームページの作成、PC でインターネットを使った通話、SNS 等と多くの技術を習いました。第 1 期生として、1 年を過ぎたころには、覚えの悪い私も一応の技術習得が終わりましたが、何といっても驚いたのは忘れる速さでした。しかし、先生は「地域の老齢化社会を PC を用いてコミュニケーションを図り、活性化する」という思いを持っている人でした。先ずは PC を使える高齢者を増やすという基礎の講座を始める必要があり、「澁谷さん時間があるなら教える側になって協力して下さい」と言われ、ローテクな吾が身を顧みずに代用教員となってしまいました。ローマ字入力に始まり、ワード・エクセルの基礎を付け焼刃で教えました。そのうち PC 教室の組織は NPO となりましたが、その運営メンバーに名を連ねています。その後（B）氏は自治会の副会長となり、私は自治会のホームページに地球環境について連載記事を書いています。

２．2003 年末、大学時代の先生を囲んでの忘年会で「講座の先輩から；時間が自由になるなら SCE・Net に参加したら」と勧誘されました。年が明けて入会し、安全研究会と教育研究会のメンバーとなり、技術懇談会のサポートメンバーとしても運営に関与することになりました。また、交流会における見学会にも参加させて貰っています。2004 年夏から 2006 年春までの 1 年半は、SCE・Net の推薦でお茶の水大での公開講座開始に当たり事務局メンバーとして参画し、且つ講師としても複数の講義を行うことになりました。SCE・Net の活動を通して新しい多くの方々と知り合う機会を得、今までにない人脈を作

ることが出来ました。それに加え研究会後の定例懇親会で、杯を傾けながらの活発な意見交換も良い刺激となっています。

３．2008 年夏、市の図書館と生涯学習センターに併設されているレストランで昼食を食べている時、「壁に貼ってあるポスター；囲碁の本質から学ぶ講座」が目に留まりました。子供のころ親が打っているザル碁を横目で見ていましたが、今まで習ったことはありませんでした。現役の時、昼休み時間に囲碁を打つ人は多くいましたが、現場ではそのゆとりもなく過ごしてきました。早速講座に参加することにしました。いまさら定石を覚えて形で打っても前からやっている人に敵う訳が無い、「碁は、石の自然な動き・風向きを感じて打つのが本質である」との禅問答のような指導のもと、毎週 1 回の教室を楽しんでいます。

４．かなり古い事例ですが、1985 年春「新聞の折り込みで；乗馬クラブ開設」を読んで見学に行き、自宅から車で 30 分程度離れたクラブに入会しました。若いころは西部劇映画が全盛で、TV でも多くのフィルムが放映されていました。馬に乗りたいという夢を叶える機会が与えられたと思いました。その後、直接指導してくれたインストラクターはオリンピック選手となりました。私は海外出張では時間を作って、イギリス・アメリカ・オーストラリア等で乗馬を楽しむことができました。今でも週に 1 回は乗りに行こうと思いながら、実際は月に 2 回程度ですが、運動不足解消の意味も込めて乗馬を楽しんでいます。

大発見に結び付くセレンディピティーと比べるとレベルの低い話で恐縮ですが、私としては潜在的に持っていた思いが「キッカケ」を機会として実現できたと嬉しく思っています。それぞれ小さな「キッカケ」によりもたらされたものが、今では生活の幅を広げる重要な要素となっています。上記の活動を通して知り得た方々と刺激し合いながら、新しい「キッカケ」も見逃さずに、充実した日々を過ごしたいと願っています。

以上